

## 会議要旨

### 【開催概要】

会議名称	第6回富田林市子ども・子育て会議
開催日時	平成26年8月21日(木) 15:00~17:00
開催場所	富田林市消防署4階視聴覚室
出席委員 (名簿順表記)	・井上委員(会長)・開沼委員・中尾委員(副会長) ・辻野委員・吉田委員・西谷委員・杉分委員・佐藤委員・岡本委員 ・岡野委員・吉岡委員・松田委員・北谷委員・三浪委員(計14名)
欠席委員	横浜委員、福田委員、久米委員、松村委員
事務局	子育て福祉部：藤田部長、教育委員会教育総務部付：芝本部長 こども未来室：青木室長、教育委員会：澤口参事 辻野参事兼課長代理、大岡主幹、寺元課長、 谷田課長代理、坂本係長、山口 ぎょうせい：稲垣
会議次第	1. 開会 2. 会議資料の説明 3. 案件 ・子ども・子育て支援事業計画(素案)の検討(グループ討議) 4. その他 5. 閉会
公開 / 非公開	公開
傍聴者	2人
その他	なし

## 【議事要旨】

事務局	<p><b>案件 子ども・子育て支援事業計画（素案）の検討（グループ討議）</b></p> <p>●資料1「富田林市子ども・子育て支援事業計画（素案）の第3章6以降」、 資料2「次世代育成支援行動計画個別事業一覧表（事業計画項目順）」 資料3「富田林市子ども・子育て支援事業計画（素案）の前半部分」の概要説明（記録省略）。</p> <p>※今回の会議は、3つのグループに分かれて事業計画の第3章6以降を討議し、最後に各グループからその内容を発表した。各グループの発表は以下のとおり。</p> <p>（各グループからの発表）</p>
グループ1	<ul style="list-style-type: none"><li>●具体的な目標を設定して、富田林市らしさを出してはどうか。</li><li>●富田林市の子育て支援は、他市に比べても高い水準にあるのに伝わっていない。見える化が必要。</li><li>●虐待を発見したとき、どこに連絡すれば良いか分からない。もっと周知が必要。</li><li>●発達障がいなどは、どうしてもマイナスイメージで捉えられる。周囲の理解と先生との信頼関係が重要。幼稚園、小学校にカウンセラーを常駐してはどうか。</li><li>●経済的支援は当然必要だが、審査の方法に問題はないか。また、経済的支援が真に子どものために使われるように、パウチャー式にするなど支給の方法を見直してはどうか。</li><li>●ワーク・ライフ・バランスは、社会全体の意識としてまだまだ普及していないので、大人が次世代にどのような姿を見せていくのが大切。</li><li>●乳幼児健診など、幼稚園や小学校などもっと身近なところで実施してはどうか。</li><li>●保育園、幼稚園、小学校が連携して、英語や日本語（読み書き、書き順）教育にもっと力を入れて、それを市のセールスポイントにしてはどうか。</li><li>●限られた財源をすべての事業に配分することは難しいと思うので、大学生や地域のボランティアの協力を仰ぐなど、経費のかからない方法で子育て支援の機会を増やすことが重要。</li></ul>
グループ2	<ul style="list-style-type: none"><li>●次世代計画の全体像が分かりにくい。前回の計画書にあるような図解があれば分かりやすい。</li><li>●児童虐待の発生予防の部分で、予防的な関わりについて、ここに力を入れるという市の意思表示がほしい。</li><li>●障がい児施策の充実について、療育施設の抽選に漏れた人に対して、最初は数人だけでもいいから市が支援に取り組んでいるという姿勢を見せること</li></ul>

<p>グループ 3</p>	<p>が大事だと思う。それで親が安心できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●幼稚園教育の場では、障がい児の支援教育に対する手立てが十分ではない。事業者の努力でなんとかなっているのが現状。障がいのある児童の行き場、通える場をどう確保するか、それは子どもの人権を守ることにもつながる。</li> <li>●保健センターの健診で発達障がいの早期発見と対応をし、子どもの発達を促しているが、支援する施策が充実していないので、障がいの認識不足でしんどさだけが残ってしまう。しんどい部分が児童虐待にもつながる可能性がある。</li> <li>●障がいを早期に発見しても支援が伴わなければ不安を与えるだけで、個々に必要な相談、支援があれば孤立を防げる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童虐待防止について、つどいの広場が育児の悩みに関する相談窓口になっているので追記してほしい。</li> <li>●乳幼児には全戸訪問などを実施しているが、子どもが小学生になると学校以外に相談できる場所や窓口がない。児童に対する暴力についてはある程度、学校でも気が付くケースはあるが、放任やネグレクト（育児放棄）などは発見しにくい。親も学校には相談しづらい。そういったケースに対応できる、気楽に話せる相談窓口が必要である。また、それを周知してほしい。</li> <li>●身近で相談しやすい窓口が必要である。現在も窓口は多いようだが、実際にどこに連絡や相談したら良いのか分からないケースがある。</li> <li>●障がい児施策について、関係機関の連携、障がいの早期発見と対応、障がいを受容できない保護者へのフォローが重要になる。昨年度から保育所、幼稚園、小・中学校の連携を図る「つながるファイル」が作成されているので、今後の積極的な活用が望まれる。</li> <li>●コーディネーターは全小学校で配置し、また通級指導が行われている小学校もある。教職員の入れ替わりがあっても、小学校内で情報を共有していくことも課題である。</li> </ul> <p>&lt;第4章についての意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●計画書の記載方法として、「現状」と「今後の課題」を区分した方が分かりやすい。</li> <li>●出産後の支援はいろいろあるが、出産するまでの援助が少ない。</li> <li>●中学校給食は費用が高い。選択性をなくし全員給食にして助成制度を検討してほしい。</li> <li>●児童館はいろいろな教室を行っていて楽しいところだと思う。しかし、交通手段がなく行けない。金剛地区にも同じような施設がほしい。</li> <li>●就学援助制度はあるが、それ以外の教育費の補助を期待する。</li> </ul>
---------------	---

会長	◇各グループで討議していただいた内容を受けて、事務局から改めて事業計画案を提示していただく。 本日の案件については以上である。
事務局	●次回の会議は10月を予定している。案件は、事業計画全体の検討となる。